

コープさっぽろ 環境負荷低減の取り組み

2013. 12.13

生活協同組合コープさっぽろ
経営企画室 村上伸吾

1. コープさっぽろの現状・事業概要

コープさっぽろの現状・事業概要

コープさっぽろ 1965年創立

組合員 141万人（北海道世帯数 268.6万世帯の50%超）

全国1位の生協（2012年現在）

店舗 108店（2013年8月現在）、宅配センター 33拠点

職員、正規 1319人、パート 10,172人

2012年度事業高

組合員出資金 620億円

事業高 2547億円

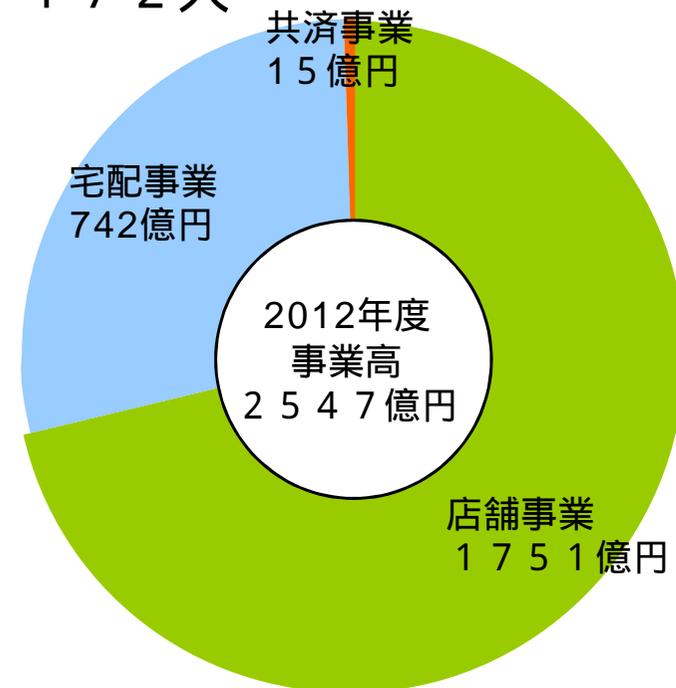
（内訳）

店舗事業 1752億円

宅配事業 742億円

共済事業 15億円

経常剰余 30億円



2. コープさっぽろの環境負荷低減の取り組み

「エコはエコノミー」 事業として成立すること
(自社インフラ活用)を前提とした取り組み

- ・ 1998年
経営再建 「経営破綻」により事業縮小
‘03年度より剰余30億へ改善
- ・ 2007年 「社会貢献」を通して北海道へ貢
献を決意。まずは「環境」から…
- ・ 2008年 「洞爺湖サミット」
レジ袋有料化、基金設置し植樹
二酸化炭素削減の取り組み

3 . 環境負荷低減活動～レジ袋有料化と植樹活動

- ・二酸化炭素排出削減の手立て
～ 店舗はゴミを生む～

行政・イオン北海道・アークスや市民活動家と
協働し、レジ袋の辞退率は90%へ

植樹は北海道と協定



- ・レジ袋辞退につき0.5円を「コープ未来(あした)の森基金」に積み立て、北海道の森の植樹や育樹活動へ

全道10地区・植樹面積2.28ha
植樹数4800本
136t-CO2の削減

4 . 環境負荷低減活動～エコセンター建設

～ 店舗はごみを出す～

店舗・組合員が分別した「資源」を
自社静脈物流を活用しセンターへ集約、
圧縮や減容処理を行い売却。
再生紙やトドック車両燃料として
再利用も行なう。



廃食油で宅配車輛300台走行

エコセンター



エコセンターの剰余は
年間1億円
宅配車輛300台が
BDFで走行（ギネス認定）
80 t -CO₂の削減

5 . 環境負荷低減活動～国内初木造大規模エコ店舗

～ 店舗は作るだけ、二酸化炭素を排出する～

- ・国内初の「木造大規模スーパー」
- ・2007年から共同プロジェクト、2009年には室蘭工業大学と共同研究を実施し2010年に開店
- ・主な導入省エネ機器・・・ソーラーパネル、ソーラーウォール、複層ガラス、LED照明、コージェネレーション、ノンフロン(CO2冷媒)ショーケース

1号店 西宮の沢店



木造にしたことで鉄筋比35%のCO2削減、
省エネ機器の導入で既存店比50%のCO2削減

西宮の沢店の電気使用量は、オール電化の既存店対比で半減した。
コープさっぽろの2012年度の電気使用量は、冷蔵ケース照明のLED化などの取り組みで、10年対比 9.2%となった。

6. 「食」と「環境」のつながり～黄金そだちシリーズ

- 北海道の米を食べた鶏や豚、牛、それらがもたらす畜産物や加工品をブランド化



田んぼがよみがえる!

お米の消費量減少にともない、稲作を休止する「休耕田」が増えています。飼料米をつくることで田んぼはよみがえり、北海道の農村にも活気が生まれます。



CO₂排出量を削減!

生産地から使用場所までの輸送距離が短くて済む道産飼料米を使うことで、輸送によって排出されるCO₂量を削減できます。



より、安全・安心に!

国産飼料米にはポストハーベスト(輸送のために収穫後に使用する殺菌剤、防かび剤)の心配がありません。安全・安心がいっそう高まります。

飼料用米取扱い量は1,598トン。
14農協3生産者が参加、年間売上は合計で7.7億円

7. 「持続可能な社会を目指し」～メガソーラー

- ・建設費の半分を組合員の出資で賄う
- ・日照時間、積雪の少なさ、土地の広さなどから帯広を選択

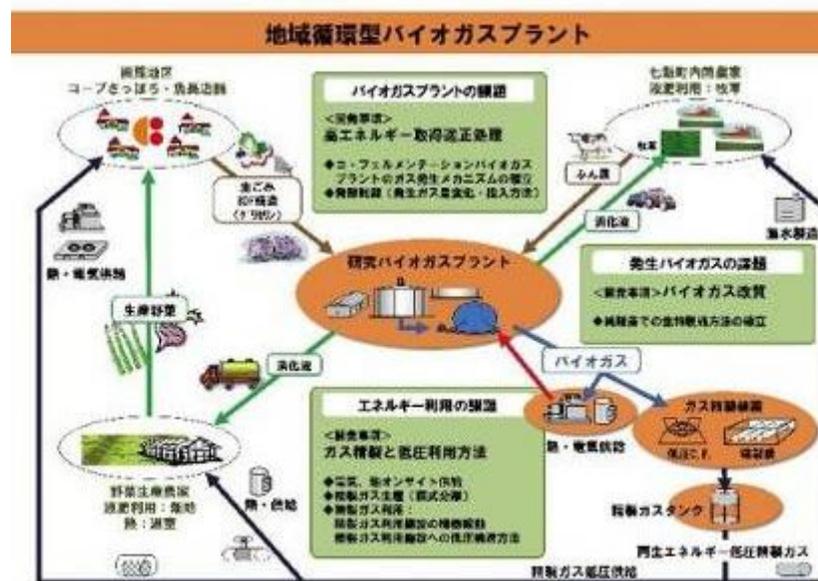


帯広市内・川西2箇所
1.95MW容量で建設
年間発電量は
約220万Kwhを目標。
売電を開始し、予定
通り発電されている。

8. 「持続可能な社会を目指し」～バイオガスプラント

再生エネルギーの検討として、NEDOと共同研究。建設終了し実験中。

函館市内店舗から食品残渣(惣菜くず、野菜くず等)と地元酪農家からふん尿を回収。BDF精製時に出るグリセリンを混ぜ、メタン濃度96%目指し精製する。



液肥は生産者へ。ガスは店舗でエネルギーとして活用する予定

ご静聴ありがとうございました。